

夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代 表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市 小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

「こどものとも」に込めた思い⑩ セロひきのゴーシュ 誕生秘話

保育問題研究会

◆「こどものとも」の2号は、宮沢賢治の『セロひきのゴーシュ』。許可を得て、佐藤義美先生にダイジェストにしていたのだ。◆当時、かなり進歩的な保育者や学者が集まっている「保育問題研究会」という会がありました。その中で私はそのお世話をして、毎月、福音館書店で「文学部会」を開いておりました。特に子どもの本が好きな、児童文学が好きな保育者の方が集まって来られて、その中でかみや保育園の福光えみこさんが「今、宮沢賢治、読んでやっているんですよ」とおっしゃったんです。◆私は信じられなかったんですよ。保育園の子どもにも宮沢賢治。ところが「宮沢賢治を読んでやると、とっても子ども達がよ

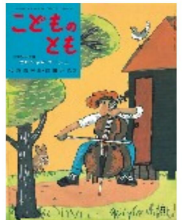
く聞きます。繰り返し繰り返し読んでやってます」って。「『オッペルと象』なんかも、子どもは大好きです」と。私は、ああそんなに宮沢賢治を幼児がちゃんと受け止められるのかということを実践を通して知りました。それで『セロひきのゴーシュ』を選んだんです。

宮沢賢治を描くなら...

◆絵は「宮沢賢治なら茂田井武だ」と、私ははっきり思っていました。茂田井先生は、ヨーロッパに旅行してらした方ですから、ヨーロッパの最新、最先端の芸術の表現を自分でマスターしてらした。先生の絵の中には、単にヨーロッパの真似ではない、人間の姿を写し取ってポエジーを込めてお描きになる。もう宮沢賢治のあの世界、あの思想、あの文学というものを絵画で表現するには先生しかない。

茂田井武先生との出逢い

◆秋、初めて茂田井先生のお宅に伺いました。「先生にぜひ宮沢賢治の『セロひきのゴーシュ』を絵本にしたいと思っていただきたいと思います」と申し上げたら、奥様は非常に困った顔をして、「茂田井は今臥せておられますので、絵を描けるような状態ではございません」とおっしゃったんです。◆私がかっかりした瞬間に、奥から声がかかったんです。「その仕事、やる。上がってもらえ」と。すぐ傍の所で布団で休んでらしたんですよ。私は申し訳ないので「もう無理だと思えますから失礼します」と言いましたら、「いや上がってもらえ」とおっしゃ



表紙を描き直す

◆先生は寝巻のまま「どういうことか」と聞かれたもんですから、「先生以外には、宮沢賢治は考えられませんがぜひお願いしたいと思えます」と言うのと、「ぜひ描きたい。その仕事やったら死んでもいい」とおっしゃったんです。もうほんとに奥様の気持ちを考えたら、私は身が縮むような思いでした。

単行本が遺作に

◆ちひろ美術館に原画があります。その後、これを「こどものとも」じゃなくて単行本（福音館書店）で出しました。ポツにした表紙も全部生かして出しました。茂田井先生の遺作として出版できることは、ほんとに名誉なことだと思っております。お

